

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 1月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200868
法人名	有限会社 ほっとぱーく
事業所名	グループホーム ほっとぱーく
所在地	群馬県高崎市竜見町 4-17 (電話) 027-321-9809

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 19年 12月 25日

【情報提供票より】(19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 12月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤専任 6人 非常勤 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1,100円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日100円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低 71歳	最高 97歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	城南医院 高崎中央病院通り町診療所 ほるな生協歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

既存の家屋を一部新築同様に改築を行い、木の温もりが活され、建物・構造自体が家庭的な雰囲気を醸し出しており、利用者への安心感となっている。職員全員が、理念に掲げられているキーワードの「安心・安全・・・」を念頭に穏やかに、ゆったりとした対応であり、理念への周知や実践の取り組みがうかがえる。意思表示が比較的できる利用者が多く、日常的な外食等個々の希望・要望に対し、臨機応変な個別的支援への取り組みが行なわれている。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援=基本的に3回/週であり、夜間入浴の希望が無い場合、午後の早い時間帯に実施されているが、希望や生活習慣等を考慮し、曜日や時間帯を更に検討を(前回評価)⇒職員会議や運営推進会議等で検討したが、未だ回答は出ておらず、安全面等を優先とした時間帯での設定で実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、管理者が項目を部分的に一部の職員に確認し、記載を行ったため、全職員間で話し合う等の取り組みはなされなかった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的(1回/2ヶ月)開催されおり、サービスの実施報告や評価結果等を提案し、意見の確認を行っている。又、各委員より出された意見については、職員会議で話し合い、今後のサービスの質の向上に生かすように務めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を設置しており、運営推進会議には複数の家族が出席し、意見・要望等を聞く機会とし、出された意見等は運営に反映させている。又、苦情受付担当者(管理者)が明記されており、窓口に「苦情箱」を設けたり、面会時に意見等聞き、日常の様子を伝える等、家族が安心できるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の保育園児や小学校児童等の慰問があり、運動会等に招待されている。又、自治会に加入しており、地域の行事(盆踊り・武者行列等)に参加したり、スポーツ団体への寄付等、日常的に地域との交流が図られている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ごく普通の暮らしの流れを大切に、朝の新聞から始まる等、生活観を失わないような取り組みと共に、安全・安心をキーワードとしたホーム独自の理念が掲げられている。	○	利用者等の安全・安心を基本に、生活観を重視した支援が確立されているが、地域密着型サービスとしての観点から、理念として、地域の中での生活を意識した内容を組み入れる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1回/月開催の職員会議で理念が実践できるよう確認を行い、日常的にはケアの場面や利用者の行動等、場面場面で説明を行っている。又、玄関等に理念が掲示されており、全職員で共有し実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園・小学校等の慰問があり、運動会に招待されている。又、自治会に加入しており、行事(盆踊り・武者行列等)の参加やスポーツ団体への寄付等、日常的に地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているが、今回の自己評価については、管理者が部分的に一部の職員より確認し記載を行ったため、職員間での話し合い等の取り組みはなされなかった。	○	評価結果については、改善策等の話し合いが行なわれているが、自己評価についても、項目内容の意義を全職員が理解し、より良いサービス提供を目指すためにも、職員全員での取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヵ月開催しており、サービスの実施報告や評価結果等を提案し、意見の確認を行っている。又、各委員から出された意見等は記録し、議事録を基に職員会議で話し合い、今後のサービスの質の向上に活かすように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書等の提出時や日常的にサービス提供上で判断に迷うこと等、市担当者に気軽に確認・相談ができる等で連携が図られており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1回/2ヵ月ホーム便り「てんとう虫通信」を発行、行事やお知らせ等を掲載し家族に送付している。運営推進会議には全家族に呼びかけ(常時3~4人出席)、その際や面会時に日常の様子を伝えている。又、健康状態の変化については、随時電話にて報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設置しており、運営推進会議には複数の家族が出席し、意見・要望等を聞く機会としている。又、苦情受付担当者(管理者)が明記されており、窓口に「苦情箱」を設けたり、面会時には直接意見や苦情等聞き運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去に職員の異動等は年に1~2名程度であり、急に雰囲気が変わる等の影響は感じられない。又、新人職員が慣れる迄は勤務表で調節する等、利用者へのダメージを考慮した取り組みが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、グループホーム連絡協議会主催や各種研修会等に順番で参加し、研修受講者は職員会議で報告を行い他の職員との共有が図られている。又、日常的にはケアの場面で気付いたことは随時伝えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、事例検討や職員の交換研修(今年度は不参加)等の研修会への参加を通して交流を図り、質の向上への取り組みが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には、本人と家族に直接見学していただき、納得した上でサービス利用となるよう、又、老人保健施設利用中等で見学が不可能な場合は、職員が訪問し家族等との連携を図り、利用者が安心して利用できるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で力量が活かせるよう、食後の片付け・洗濯物たたみ等、職員と共にやっている。又、比較的意見・要望等の意思表示が可能な人が多く、おやつ作りや買い物時等、日常的に利用者から学ぶことが多く、支え合いの関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向等を伝えられる人が多く、各自の希望に沿った生活支援が出来るよう、家族との相談・協力を得ながら継続的な支援を心がけている。又、日常生活の様子から独自のアセスメント表活用により、利用者本位に向けて検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向確認を基に、申し送り時や職員が気づいた事を記載した「連絡帳」の確認を行い、職員全員で話し合いの上、利用者 に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送り時等で定期的にモニタリングを行っている。介護計画は随時作成し、日々状況が変わる際は家族・医師・職員等で確認を行い、臨機応変な対応をしているとの事。介護計画の見直しについては、1回/5ヶ月～1回/6ヶ月程度の見直しが行われていた。	○	モニタリングについては日常的に行われてはいるが、現状に即した介護計画及び定期的な見直しの観点から、利用者・家族に再確認の意味も含め、少なくとも1回/3ヶ月は、モニタリングを活かした介護計画の見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族による受診を基本とはしているが、都合に応じて職員により受診(皮膚科・歯科等)の支援が行なわれている。又、医療連携体制及び介護予防認知症対応型共同生活介護の指定を受けており、柔軟な支援体制が図られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約時にホーム協力医についての説明を行い、家族の希望によりかかりつけ医の変更・同意を得て、1回/月の往診支援が行なわれている。又、1回/週訪問看護ステーションの看護師の訪問により、医療との連携体制が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化等についての説明を行っており、重要事項説明書に指針が記載されている。現在は安定しているが対象者が2名おり、2回/週協力医による定期的な往診があり、家族・職員等が随時話し合いながら支援がしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳やプライバシーに配慮し、会議時の内容等は外部で話さないよう徹底している。特に利用者から「怪しまれる様な行動」は慎むよう日常的に十分注意している。又、就職時に「個人情報保護」についての誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、洗濯物たたみ・食後の片付け等、出来ることは行っていただくよう、各自のペースを保ちながら過ごせるような生活支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お勝手の構造上、立位が不安定であったり、実際に火を扱うことは困難な為、調理の下ごしらえや後片づけ等、職員と一緒にこなしている。又、利用者と共に献立・食材の購入に出かけたり、食事時は職員が同席し会話を楽しみながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	歩行が不安定で車椅子を使用している状態の為、安全を第一とした清潔を心がけ、職員に余裕があり何かの時には病院へ駆け込める時間帯(13:00~15:00)、3回/週(月・水・金)に実施している。利用者への希望確認等は行われていない。	○	安全や清潔を優先する事も大切ではあるが、利用者各自が楽しみながらの入浴をといった観点から、時間や曜日を設定してしまうのではなく、利用者の希望を募って時間帯等を検討する試みを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各自の生活歴等を把握し、家事(洗濯物たたみ・食事の下ごしらえ)や趣味(新聞を読む・楽器演奏)等が日常的に継続できるよう支援している。又、ボランティアの訪問により歌や音楽鑑賞等、楽しみごとへの支援も行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に行く等、一日一度は外出できるよう心掛けている。又、季節に応じたお花見(桜・ファミリー公園等)やドライブを兼ねて夏は観音山、冬は市役所周辺のイルミネーションを観に行く、希望により回転寿司を食べに行く等、日常的な外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、玄関は夜間のみ施錠し、日中は施錠しないケアの実践に取り組んでいる。日中は誰でも出入りが自由であり、暑い時等は戸を開放したりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年避難訓練を実施している。1回は夜勤帯を想定した避難訓練が行なわれ、実施記録等がある。又、地域の利用者(5名)が多く、家族と緊急時等の連絡網を作成しており、協力体制が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者から希望を募り、食材の購入・調理を行い献立として反映させ重複しないよう、形態を含め一日の栄養バランス等考慮している。又、食事チェック表・水分チェック表の活用により、個々の健康面等を考慮した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は殆ど食堂にいることが多く、食堂前にウッドデッキが設置されており、採光も適度で窓越しに庭木の花や野鳥を話題にする等、景観も良く季節感が味わえる。又、臭気や温度等の管理がなされ、居心地よく過ごせるよう工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へ馴染みの品を持って来てもらうよう働きかけ、本人の希望を考慮し、各居室には筆筒・写真・テレビ等が持ち込まれおり、利用者が安心して過ごせるような配慮がなされていた。		